

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490400142		
法人名	社会福祉法人 福寿会		
事業所名	グループホーム 日田園		
所在地	大分県日田市大字石井字熊ノ下711番地1		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	令和6年3月18日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和5年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で他者との交流がない時期が続くご家族や馴染みの方との交わりが少なくストレスを感じる日々でしたが毎日の職員との関わりの中で笑顔も見られ、落ち着いた生活を送ることができている。日常生活の中で決められた日課もあるものの、基本的にはひとり一人の時間を大切に過ごすことができるように支援し、支援する中で小さな変化も気づけるように日々気を付けている。入居者同士の関係は良好であり、談笑する様子も多。その輪に職員も加わり楽しく過ごす事ができるよう努めている。毎月の請求書と一緒に送る日々の活動や様子を手紙や写真などで知らせるなど、面会ができない状況での入居者の様子を共有している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・研修体制が整っていて、職員の資質の向上に努めている。
- ・毎月家族に対し、入居者の様子を写真を添えて丁寧に伝えることで家族の安心につながっている。
- ・食事は法人の厨房で作っているが、職員と一緒におやつにホットケーキやどら焼きを作り、楽しみの一つとなっている。
- ・歩行時に車いすが必要な人も、食事の時やリビングにいる時はきちんと椅子やソファーに移乗し、くつろげるよう配慮している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の「あかりいじ」法則にあわせ、明るく家庭的で利用者の立場に立ち日々の支援を行うように努めている。	理念はホールに掲示され、職員全員で唱和している。職員は声掛け一つにも気を配り、笑いのある日々であるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナの感染症上の分類が変更となったが、感染症へ不安も続き地域との交流は困難であった。	コロナ禍ではあるものの、地域には日田園新聞を配布し、グループホームの活動を紹介している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人が毎月発行している「日田園新聞」の中でグループホームの活動を知らせたり認知症についての情報発信を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催時には、サービス内容の実際や認知症の入居者への対応について困難事例など報告し意見をもらっている。	運営推進会議では地域の方から行事の案内もあるが、コロナ禍のため参加には至っていない。事業所での取り組みや入居者の近況を伝え、質問やアドバイスをもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加時には市の担当者や地域包括支援センター職員からのアドバイスを受けることができている。	市担当者は運営推進会議に参加し、実践状況を伝えるとともに、相談や意見を聞いている。また研修案内をもらうなど協力関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体での身体拘束についての研修へ参加し正しい理解を深めている。管理者は身体拘束廃止委員として毎月委員会へ参加している。	定期的に研修を行い、何が身体拘束に当たるのかを認識している。言葉の拘束も優しく言ってもその人の行動を止めることになるなど、正しく理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体での高齢者虐待についての研修に参加し学びを深め、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体での権利擁護についての研修に参加して学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要自己を説明する際には丁寧に行うように心掛け、利用者や家族の不安などについて尋ね安心して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望などを投函するポストを設置している。面会の再開時や受診時に家族からの意見などを受け運営に反映させるよう努めている。	家族の面会時や、毎月送る新聞や写真とともに日々の様子を伝え、電話で意見や要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員ミーティングで意見や提案を受けたり必要時に都度聞くなどし、反映させている。	月に1度のミーティングで職員の意見から、勤務時間の変更が改善されたり、パットの使い方の提案で変更した例もある。職員の意見はとりあえず実践してみて全職員の意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人では年2回の自己評価、年1回の上司による評価をもとに、勤務状況や実績を反映させる仕組みを作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での職員研修への参加や、法人外の研修を受けると就業時に必要となる学びを深めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内9事業所で作られている連絡協議会に参加。会議は2ヶ月に1回開催している。コロナ禍での活動や取り組みについての情報交換など行っている。昨年度より合同研修会を再開し、これからのサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と話をすることでグループホームでの生活において不安なことなどに耳を傾けるなどして関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族のグループホームへの不安や要望などについて耳を傾け関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時点で本人の困りごとなど支援が必要などを見極めるよう努めている。新たな入居者に対して他の入居者が馴染みやすく係るなどの姿もみられサービスの利用ができています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で一緒に笑う時間も多く、職員や入居者が楽しく過ごす関係づくりを行うように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々感染症などで面会ができないことなど閉鎖的になりがちであり、グループホームでの様子を知らせる事で本人との関わりを持ってもらえるような働きかけを行うように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や面会などの制限がなくなってきているが馴染みの関係が薄くなっているのが現状である。馴染みの人や場所との関係づくりの再構築が必要となっている。	入居の際からなじみとなっている美容師さんが来てくれたり、病院受診の際に家族に依頼し出かけている。年賀状を出す支援も始める予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の声掛けや関わりも多く日々の生活の中で良い関係づくりができています。それぞれの思いもあり口にすることもある為、その都度関係改善ができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も関係性が持てるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の活動や会話の中で現状への希望について聞き取ったり気づいたことがあれば職員間で共有している。	日々の暮らしの中での会話や、受診時に外出した時などに意向や希望を聞き、職員で共有している。本人の思いに沿った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からこれまでの生活について聞き取るなどグループホームで生活するまでの本人の状況把握を行って行く様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	グループホームで過ごす日々の中で心身の状態を把握しそれぞれの状況に合わせて支援するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の生活の中で本人に起きた変化などについて職員間で共有しよりより生活が送れる為の計画作成に努めている。	職員の気付きをもとに、ミーティングの中で話し合い、本人の変化や以前の状況を考えながら見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シートを使用して個別の記録を記入している。1日の流れの中で気づきなど細かく記入することで変化に対してすぐに対応できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホーム内でこのニーズに対応することが困難な場合には家族に協力を得るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	面会が制限される中で面会可能な限り共同できるように努めていく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診を継続している。家族の同伴を基本としている。本人・家族・医師との係りをもち生活の中で変化が見られた際には、職員同伴で受診を行い医師より助言をもらうなど適切な医療を受けられるよう努めている。	全員が元々のかかりつけ医となっている。受診は家族に本人の様子を伝え家族が担っている。変化があるときは職員も同行し、医師との連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段の健康管理など常勤の看護師が行っており介護職員からの報告などにより素早い対応を行える様に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院時には医療機関に早々に情報提供票を提出し、入院中のケアに役立ててもらうように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には重度化や終末期の対応、看取りについて説明を行っている。入居者の心身の変化において必要な対応や方向性については文章にて説明を行い、本人や家族へその都度確認するよう努めている。	入居時に家族に説明を行い同意書をもっている。状態の変化に応じ早い段階で家族と話し合い、住み替えを含む今後のことを確認しあっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人全体での救急法や事故発生時への対応について研修を受けている。事業所のマニュアルを作成し適切な対応ができるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施や初期消火のための消火器の使用手順の確認を粉う。事業所内にて3日間分の食糧の備蓄あり。	毎年避難訓練を行い、自然災害時の避難経路など確認しあっている。備蓄も3日分ある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者ひとりひとりの人格や認知症状によって声かけや対応を変えて対応している中で個人を尊重できるような対応ができる様努めている。	人格を尊重し、一人ひとりにあった声掛けを心掛けている。大声で促さないなど相手の立場に立った対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が困難な場面も増えている入居者に対して、適切な対応を行うことが必要であり、日々働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームでの生活で必要な流れができていながらもその中で本人のペースで過ごすことができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	夏・冬での衣替えを行い、入居者自身で季節に合った衣服選びができるように支援している。ご家族の希望もあり施設で訪問美容師にてヘアカットを行っているがご家族対応で馴染みの美容室へヘアカットに行くなどその人に合わせおしゃれを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の厨房にて調理したものを配達してもらい盛り付け配膳している。誕生日や行事食など変化のある食事を提供している。入居者それぞれが楽しんで食事をしている様子が見られる。テーブル拭きや下膳など可能な手伝いをお願いしている。	食事は法人で作っているが、おやつ作りでホットケーキやどら焼きを作り楽しんでいる。食事の時は車いすの人も椅子に移乗し食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し職員全体で把握している。入居者それぞれの食欲や口腔状況に合わせた食事形態で食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアへの支援を行っている。入居者それぞれに応じて声掛け・準備など一部介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の習慣によって排泄のパターンを把握している。誘導時には本人のプライバシーに配慮した声掛けなどを心掛け支援している。	半数の人は自立している。ほかの人には排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮した声掛けを行っている。夜間の声掛けは、睡眠状態を見ながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前・午後と体操し身体を動かす取り組みを行っている。腸の動きが鈍っている為便秘薬を処方されている入居者は多い。服用時には水分を多めに取ってもらう様気を付けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴日には環境を整え、くつろいだ気分が感じられるよう支援している。本人の希望に応じて臨機応変の対応を心掛けている。	一人ひとりの希望に応じて週3回の入浴を基本としている。希望によりシャワー浴や柚子なども入れ、入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠に繋がるような生活を心掛けている。日々の生活において入居者それぞれの心身の状況に応じて休息がとれるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者に必要な内服薬を確実に服用することができるよう努めている。誤薬についての対策も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の活動の中で入居者それぞれが楽しむことができるように支援するよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症の対策を行いながらご家族が受診に合わせた面会及び外出を行う入居者もありその都度必要な支援を心掛けている。	天気が良い日は、近くの公園や敷地内の散歩を楽しんでいる。玄関先に座って道行く車を眺めながら外気浴や雑談を楽しんでいる。また受診の際に家族との外出も楽しみの一つである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者個人での貴重品の管理は行っていない。必要なものについては職員が購入するしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に確認の上自宅への電話など可能な限り行うことができている。時折遠方の家族からの手紙が送られてくることもあり見返して笑顔がみられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段、ほとんどの入居者が食堂兼居間にいる時間が長く居心地は良い場となっている。	それぞれがソファーに座り、仲の良い人同士で雑談をしたりテレビを見たりして和やかな雰囲気となっている。テーブルやソファーの配置が一人ひとりが自由に居心地よく過ごせる工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席はできるだけ気の合う入居者が集う席となっており、それぞれの時間をすごせる場所とである。テレビ前のソファーで過ごしている際には寄り集まって話ができるスペースになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は自宅に戻った際に支障がない物について持ち込んで頂くように家族にお願いしている。入居者が日常生活を過ごす際に必要となるものなど居室で過ごす時間が居心地の良いものになる様努めている。	各居室には飾り障子があり、自宅の雰囲気を醸し出している。また、それぞれの居室にはテレビやたんす、洋服掛け、家族の写真など個性的な部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの居室の場所やトイレなど必要な場所については目印や名札などで知らせ本人が確認して移動できるような工夫を行っている。		